



序章 ー 取り組む際の考え方

取り組む前に、知っておいていただきたいこと

ー 本資料は、環境再生保全機構地球環境基金（2021年度）の助成を受けて作成しました ー

東京 2020 大会の持続可能性コンセプト

Be better, together



より良い未来へ、ともに進もう。

気候変動

脱炭素社会の実現に向けて

資源管理

資源を一切ムダにしない

大気・水・緑・生物多様性等

自然共生都市の実現

人権・労働、公正な事業慣行等

多様性の祝祭

参加・協働、情報発信

パートナーシップによる大会づくり

調達物品の99%のリユース・リサイクルを実施

公共交通機関の活用

日本の木材活用リレー
みんなで作る
選手村ビレッジプラザ

既存会場の活用

再生可能エネルギーの電力を100%活用

国連「ビジネスと人権に関する指導原則」への準拠

持続可能性に配慮した調達コード

都市鉱山からつくる！
みんなのメダルプロジェクト

燃料電池自動車等の活用

H₂

Tokyo 2020
アクセシビリティ・ガイドラインの策定

東京2020
参画プログラムを
全国で展開

雨水の循環利用・
都市と自然の共生

イラストはあくまでイメージです。

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

東京 2020 大会を通じて、世界共通の課題である国連「持続可能な開発目標 (SDGs)」に貢献します。

公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 公式サイトより

<https://olympics.com/tokyo-2020/ja/games/sustainability/>

東京2020大会の持続可能性

5つの柱で
運営計画を策定し
実施されている

その背景として...



SDGsの宣言文にも、
スポーツが
“持続可能な開発における重要な鍵”
となることが
明記されている。

スポーツイベントでの環境配慮の視点(例えば...)

会場・施設・主催者
ができること

<建設を伴う場合>

- 生態系への影響を調査し、問題がないか確認する
- 既存施設の利用も検討する

チーム・仲間
ができること

<開催時期の選定>

- そこに生息する野生生物の繁殖期や、渡り鳥等移動する野生生物に影響はないか確認する
- 季節に応じた暑さ・寒さ対策をした場合の影響を把握する

個人
(ファン・観客)
ができること

<資材・物品の調達>

- 施設で使用する資材や、イベントで提供する物品のサプライチェーンにおける持続可能性を確認するための基準を決める(どのように作られ、どのように運ばれてくるかを確認する)

<CO2削減>

- 省エネを実施し、電力契約を再エネへ変更する
- ごみを削減の対策を実施し、廃棄物の循環を促す

スポーツイベントでの環境配慮の視点(例えば...)

会場・施設・主催者
ができること

チーム・仲間
ができること

個人
(ファン・観客)
ができること

<CO2削減>

- 事務所やオフィスで省エネを実施する
(使用時間／設定温度／LEDへの切替え等)
- 団体移動の経路・乗り物は、CO2排出の少ないものを選択する。
(電車 < バス < 飛行機)

<サステナビリティを広める>

「ひとりの100歩より、100人の1歩」

- 選手、スタッフ、ボランティアへの環境教育
- ファンも巻き込んだ取り組みを企画する

スポーツイベントでの環境配慮の視点(例えば...)

会場・施設・主催者
ができること

チーム・仲間
ができること

個人
ファン・観客
ができること

<CO2削減>

- 移動は、CO2排出の少ないものを選択する。
(徒歩・自転車<電車<バス<飛行機<自家用乗用車)
- 可能な範囲で水筒やリユース食器を使う
- ごみの分別は正しく行う
- 不要な使い捨てのサービスは断る

<サステナビリティを広める>

「ひとりの100歩より、100人の1歩」

- チームや会場の良い取り組みをSNSで発信する
- みんなでスポーツを楽しむ心がけを

環境配慮に取り組む上でのステップ(重要な優先順位)

① 現状を把握する

① 現状をしっかりと把握する

《準備》

- まずは現状がどのくらいの消費量、CO2排出量なのかをしっかりと把握しましょう
- 調達している資材・物品について、その素材やサプライチェーンの持続可能性を確認しましょう

② ムダを減らす

① ムダを減らす

《実行する際の優先順》

不要なもの、余剰が多くないかを見直し、ムダを削減しましょう

③ しっかりと選ぶ

② しっかりと選ぶ

採用する物事について、その影響の確認をして選びましょう

④ 正しく使う

③ 正しく使う

再利用できるか、リサイクルできるか等、使用後にどのように循環されるのかを意識しよう